

## 錠剤

- (1) 錠剤に割線のあるものは、半錠可とする。
- (2) 散剤のヒートシールは、1回3包まで可とする。

(例外として分包品で払出す薬品)

フェキソフェナジン DS、ケイキサレート DS、ソリタ T3 配合顆粒、ネキシウム懸濁用顆粒、プログラフ顆粒、ホスリボン配合顆粒、モビコール配合内用剤 LD、モンテルカスト細粒

- (3) 錠剤・カプセルの分包について

- ・薬品名と剤形を印字する。(例) ワーファリン錠
- ・複数規格あるものは規格も印字する。ただし文字数制限で、薬品名・剤形・規格のすべてが印字できない場合薬品名・規格を優先する。
- ・同一処方(1Rp)内に分包するものが2種類以上ある場合は、1種類ずつ分包する。
- ・1回服用量が「0.5錠」「1.5錠」などの場合、1回量全てを分包する。

(例)バクタ配合錠      3錠      1.5錠×6包  
分2      3日分

## 散剤

- (1) 原則、同一処方内の散薬は混合する。

例外① 全て、ヒート製剤で調剤できる場合(全てヒート製剤で調剤)

例外② 漢方薬とそれ以外の薬品は別包とする。(複数の漢方薬同士は混合可。漢方薬は湿潤しやすいため)

例外③ 配合変化を起こす散薬がある場合は別包とする。

### 【配合変化を起こす医薬品】

| 別包医薬品   | 配合不可対象医薬品               | 理由                      |
|---|-------------------------|-------------------------|
| セレンカ R<br>塩化ナトリウム<br>塩化カリウム<br>テオフィリン DS<br>バルプロ酸 Na<br>ヨウ化カリウム | 全医薬品                    | 湿潤                      |
| クエン酸第一鉄ナトリウム顆粒  | シナール<br>炭酸水素ナトリウム       | 色調変化                    |
| ネオイスコチン   | ミヤ BM 細粒                | 色調変化                    |
| アスピリン<br>シナール<br>パンピタン末   | 酸化マグネシウム細粒<br>炭酸水素ナトリウム | 酸性医薬品(左欄)<br>塩基性医薬品(右欄) |
| アルファロール散(バラ)<br>オセルタミビル DS<br>ブイフェンド DS                         | 全医薬品                    | 冷所保存                    |
| サムスカ顆粒<br>ビタミン配合散   | 全医薬品                    | 配合により外観変化する<br>薬剤多数あり   |

## (2) 賦形剤

1包が0.2g未満の場合は、乳糖を加えて1包を0.2gとする。

(例外)

| 医薬品名  | 賦形剤        |
|---|------------|
| ネオイスコチン<br>乳糖禁の場合   | トウモロコシデンプン |
| 顆粒剤、ドライシロップ<br>抗生剤細粒、塩化ナトリウム、<br>塩化カリウム、ドパストン散(検査用)<br>漢方製剤、臭化カリウム、ヨウ化カリ<br>ウム、炭酸水素ナトリウム、乳酸カル<br>シウム、沈降炭酸カルシウム、アレルギー内科の負荷試験処方 | 賦形剤を加えない   |

(3) 原則、1回の秤取量を0.1g以上(秤の精度)になるように秤量日数を変更する。

(例外：乳糖)

## (4) 粉碎

- 錠剤粉碎の可否を確認する。
- 錠剤粉碎時は複数規格ある場合でもオーダーで指示されている規格のみを使用して調剤を行う。
- 粉碎する錠剤数は最小整数(割線のあるものは半錠可)とし、比例計算により必要量を秤り取る。
- カプセルは中味を取り出し(カプセルごと粉碎しない)、錠剤(裸錠以外)は篩過する。

## 3 内用水剤

内用水剤は全て原液調剤とする。調剤方法の詳細は以下のとおり。

なお、通常は透明水薬瓶を使用するが、内服用ルゴール液の場合は褐色水薬瓶を使用する。

### (1) 調剤方法

- 製品単位および端数で全量を払い出す。  
(例)ラクツロース 700ml→製品1本 600ml + 水薬瓶 100ml
- 1回量を1mL単位で測り取れる計量カップを添付する。計量カップの1回量を目盛りに黒マジックで線を入れ、「←1回分」と記載する。  
なお、1回服用量が1mL未満の場合は適当なスポイトを添付する。スポイトには1回量を目盛りに黒マジックで線を書かない。  
また、1回服用量が1.7mLなど小数点以下の端数がある場合は計量カップとスポイトを両方添付する。この場合は計量カップとスポイトの両方共に黒マジックで線を書かない。
- アルファロールを分注した場合は、専用スポイトをつけて払い出す。
- 用法が1回分の場合、水薬瓶には過剰に入れず、正確に秤量した1回分を入れる。また、計量カップは添付しない。

(2) 留意事項

| 医薬品名  | 調剤方法  |
|---|---|
| アスベリン<br>アタラックスP<br>アルファロール*<br>アルロイドG<br>アンブロキシソール<br>イトラコナゾール内用液*<br>インクレミン<br>エルカルチンF F 内用液<br>カロナール<br>ジメチコン内用液<br>単シロップ<br>デキサメタゾン<br>トリクロリール<br>ネオーラル*<br>ファンギゾン<br>バルプロ酸Na<br>フェノバル<br>ヘマンジオールシロップ*<br>ポララミン<br>ポンタール<br>マグコロール<br>ラクツロース<br>リンデロン | 単独、原液<br><br>*イトラコナゾール内用液は水薬瓶に直接入れる。<br>(油性製剤のため水に触れると白濁するのでメスシリンダーで量らない)<br>*アルファロール、ヘマンジオールシロップ、ネオーラルは専用のシリンジ・瓶を使用して調剤する。<br>*ネオーラル内用液の分注調剤時は、付属のチューブを内蓋に付けて払い出す。 |
| エルカルチンF F 錠<br>(内用液ではなく錠剤の粉碎を希望された場合)   | 以下3 (3) のとおり。<br>ただし、希釈せずに払い出す場合(自宅で溶解・希釈)は、錠剤を7日分ずつ水薬瓶にくくり、薬袋に「7日分ずつ水で溶かして、矢印までうすめてお飲みください」と記載する。<br>※ 希釈濃度は 100mg/mL を超えないこと(100mg/mL 以上のデータがないため)                |

(3) エルカルチンF F 錠の粉碎・希釈調剤方法

- ① 7日を超える場合、7日分を区切りとし、希釈は1瓶のみとし端数を優先する。  
 水薬瓶は全て同じ規格の水薬瓶で同じ目盛りを使用する。  
 (例) 30日分 → 7日分×4本を希釈しない+2日分を希釈
- ② 希釈は加水量が最小となる目盛りを選択する。  
 希釈に用いる目盛りの上限の線のところに黒マジックで線を入れ **1回1目盛** のシールを貼付する。
- ③ 7日を超える場合に希釈しないで払い出し用時希釈するものは、7日分の錠剤を水薬瓶にくくり、薬袋に「7日分ずつ水で溶かして、矢印までうすめてお飲みください」と記載する。

4 外用水剤 (吸入液)

吸入液の水剤 (ブロムヘキシシン塩酸塩吸入液及びベネトリン吸入液) については、透明水薬瓶を使用して混合調剤を行う。調剤方法の詳細は以下のとおり。

(1) 調剤方法

① 透明水薬瓶に処方量を測り入れる。

(例)ベネトリン吸入液 5mL+生理食塩液 35mLの場合  
合計 40mL のため、60mL の透明水薬瓶を使用する。

② 水薬瓶に外用薬 のんではいけませんのシールを貼付する。

※ 外用水剤では計量カップは添付しない。

5 外用剤

(1) 遮光容器で払い出すもの  
ピオクタニンブルー